

けんぽく農林ニュース

～「くだもの・きゅうり・花き王国の飛躍と農林業の持続的な発展」～

令和5年 9月29日発行 第99号





秋の味覚、ふくふくしめじ、もう間もなく！（写真は昨年度に出荷されたもの）
10月下旬からほんしめじの県オリジナル品種「ふくふくしめじ」の出荷が始まります。
店頭に並ぶまであと1ヶ月！お楽しみに！





～目次～


- ◆「野生きのこ」は出荷が制限されています P 1
- ◆第64回福島県農業賞を県北管内から3経営体を受賞しました P 2
- ◆令和5年度多面的機能支払交付金に係る管内市町村担当者会議を開催 P 3
- ◆DATECが「ふくしまフェスタ」に出店、「いちご狩り」を開催！ P 4
- ◆令和5年度伊達地域新規就農者研修会を開催しました P 5
- ◆令和5年度農作業技術養成講座が開催されました P 6
- ◆おいしい ふくしま いただきます！キャンペーンを実施しました P 7
- ◆福島県特定家畜伝染病対策県北地方連絡会議を開催しました P 8
- ◆県北地方GAP推進協議会を開催しました！ P 9
- ◆7月13日、26日、8月8日は、ふくしま桃の日記念日！ P10
- ◆「令和5年度県北地方フラワーネットワーク検討会」を開催しました！ P11
- ◆JAふくしま未来、桑折町の表敬訪問を受けました P12
- ◆ふくふくしめじ生産・販売支援の取組 P13
- ◆献上桃の選果式が行われました！ P14
- ◆伊達市の「WC5用稲」の収穫が始まりました！ P15
- ◆ぶどうの「根圏制御栽培」現地検討会を開催しました！ P16
- ◆きゅうり基礎講座（第1回）を開催しました P17
- ◆「令和5年度県北地方有害鳥獣被害防止対策会議」を開催しました！ P18
- ◆農業水利施設の役割について学習しました！ P19
- ◆「田んぼの学校 田んぼの生き物授業」を行いました！ P20
- ◆「ふくしまの農村学びの場」現地見学会を行いました P21
- ◆一般農道整備0301工事小島3期地区が優良建設工事表彰を受賞 P22
- ◆二本松実業高校の生徒へ「フレッシュ農業講座」を開催！ P23
- ◆福島県農林水産業振興計画に係る意見交換会を開催しました P24
- ◆市町村林道担当者の林道災害復旧事業研修会 P25




<p>題名</p>	<p>「野生きのこ」は出荷が制限されています</p>
<p>本文</p>	<p>野生きのこの採取シーズンを迎えますが、県内では中通りと浜通りの全域、会津の一部地域で採取された野生きのこは、放射性物質の影響により出荷が制限されています。そのため、以下の行為が制限されているため、御注意ください。</p> <p>(1) 店舗や料理店等への出荷 (2) フリマアプリ、無人直売所等の個人売買 (3) 乾燥や水煮などの加工品の原料としての使用 (4) 他人への譲渡</p> <p>出荷が制限されていない4町村(湯川村、金山町、南会津町、檜枝岐村)で採取した野生きのこを販売する場合においても、県のモニタリング検査を受ける必要があります。</p> <p>また、まつたけについては、県の非破壊検査機器による検査を受け、検査機器に応じて設定される基準値(100Bq/kgを超過しないように設定されるスクリーニングレベル)を下回ったまつたけは出荷ができます。出荷を希望する場合は、当所までお問い合わせください。</p> <p>【担当部署：森林林業部林業課、電話：024-521-2632】</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="320 994 890 1391"> <p>福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報</p> <p>Fukushima prefecture agriculture, forestry and fisheries products processed food monitoring information</p> <p>2018年3月1日より「ふくしま新発売。」のサイトデザインをリニューアルしました。</p> <p>品目から探す</p> <p>野菜 Vegetables, 果物 Fruits, 根菜・芋類 Root-Potatoes, 山菜・きのこ Mountain herbs Mushroom, 玄米・穀類 Brown rice Cereals, 肉・卵・乳肉 Meat-Egg-Rose milk, 魚介類 Seafood, その他生鮮食品 Other, 農林水産物全て All items, 加工食品 Processed food</p> </div> <div data-bbox="906 994 1426 1391"> <p>野生きのこ出荷制限位置図</p> <p>■ 出荷制限市町村 ■ 出荷制限一部解除市町村</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">HP トップ画面 図 1</p>
<p>写真タイトル</p>	<p>HP 福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報 https://www.new-fukushima.jp/</p> <p>図 1 きのこ、山菜類のモニタリングと出荷制限品目・市町村について https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/ringyo-monitoring.html</p>
<p>担当部署</p>	<p>森林林業部</p>
<p>振興方向</p>	<p>1 東日本大震災及び原子力災害からの復興加速化</p>



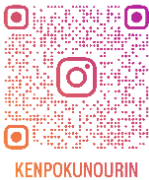
<p>題名</p>	<p>第 64 回福島県農業賞を県北管内から 3 経営体が受賞しました</p>
<p>本文</p>	<p>令和 5 年 9 月 12 日（火）、福島市の杉妻会館において「第 64 回福島県農業賞」の表彰式が行われました。「福島県農業賞」は農業 10 傑とも称され、本県の農業分野で最も権威のある賞のひとつです。</p> <p>今回、当所管内から、農業経営改善部門で福島市の油井健治さん・妙子さん御夫妻と、伊達市の佐々木春男さん・明子さん御夫妻、二本松市の佐藤佐市さん・洋子さん御夫妻の 3 組が受賞されました。</p> <p>油井御夫妻は、もも、りんご、ぶどうの果樹栽培をはじめ、主食用米、酒米等をバランスよく組み合わせ、複合経営を実践しています。自身の経営だけでなく、市民農園や学習センター事業、仁井田地域資源保全会等、地域において食育活動や農地の保全活動にも貢献されています。</p> <p>佐々木御夫妻は、ももを主とし、りんご、水稻（作業委託）の果樹を主体とした経営を実践しており、ももの栽培品種は極早生の「はつひめ」から極晩成の「幸茜」「さくら」など 14 品種を栽培し、長期間の収穫・出荷による労力の平準化と雇用の維持に努めています。また、新規就農者への支援にも力を入れており、就農希望者の指導や、就農後の相談役として支援を行いながら、地域農業の継承に尽力されています。</p> <p>佐藤御夫妻は、野菜苗の生産を中心に、産直野菜と菌床しいたけを生産する複合経営を行っています。あわせて新規就農者の研修受け入れを行っており、研修生は研修を通じて地域に溶け込み、研修後は多くが地域の農業継承者として定着しており、地域の担い手確保に貢献しています。</p> <p>3 組とも優れた農業経営を実践するだけにとどまらず、地域貢献もされていることから今回の受賞につながりました。受賞者の皆様の今後ますますの御活躍を御祈念申し上げます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真 1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 2</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 3</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真 1 油井健治さん・妙子さん御夫妻 写真 2 佐々木春男さん・明子さん御夫妻 写真 3 佐藤佐市さん・洋子さん御夫妻</p>
<p>担当部署</p>	<p>企画部</p>
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>



<p>題名</p>	<p>令和5年度多面的機能支払交付金に係る管内市町村担当者会議を開催</p>
<p>本文</p>	<p>多面的機能支払交付金は、地域の共同活動を支援し、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮とともに、担い手農家への農地集積という構造改革を後押しするため、活動組織の取組を支援しています。</p> <p>新年度を迎え、当所管内の市町村の実務担当者に対して、情報の提供及び意見交換を目的として、本会議を令和5年6月28日（水）に二本松市安達支所で開催しました。</p> <p>当日は、関係者18名が出席し、主催者を代表して、農村整備部部長が挨拶した後、福島県多面的機能支払推進協議会から交付金事業への取り組み方を説明いただき、制度の内容などを当所の担当職員から説明を行いました。</p> <p>また、意見交換では適切な中間指導と是正確認（実績報告）と題して、活発な議論がなされました。</p> <p>さらに、市町村の実務担当者が多面的機能支払交付金事業を運用するに当たり、疑問に感じていた点についても話し合うことができました。</p> <p>本会議を通して、共通の認識を共有するだけでなく、市町村間の横のつながりも強化されました。</p> <p>当所としては、今後とも市町村・福島県多面的機能支払推進協議会と連携を図り、活動組織の取組を支援していきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 農村整備部部長の挨拶 写真2 当所担当職員からの説明</p>
<p>担当部署</p>	<p>農村整備部</p>
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>

<p>題名</p>	<p>DATECが「ふくしまフェスタ」に出店、「いちご狩り」を開催！</p>
<p>本文</p>	<p>伊達地域の青年農業者組織「DATEC」は、地域の農産物等のPR・販売促進のため、「ふくしまフェスタ（恵比寿ガーデンプレイス）」への出店や、地元での「いちご狩り」などの活動に取り組んでいます。</p> <p>「ふくしまフェスタ」では、6月10日（土）～11日（日）の2日間、さくらんぼやいちご、きゅうり、アスパラガス、果物ジュース、洋菓子、味噌等、約400点を販売し、伊達地域の農産物のPRを図りました。会員自身が生産、製造している商品を出品しているため、さくらんぼの品種ごとの味の特徴や料理に合わせた味噌選び等を消費者に直接伝えるなど、積極的にコミュニケーションをとることで、購入者から好評を得ました。</p> <p>また、6月25日（日）には、伊達市霊山町の会員ほ場にて「伊達な畑カフェいちご狩り」を開催しました。大人38名、こども29名の計17組が参加し、参加者からは、「いろんな品種があってうれしい」と喜ぶ声も多く寄せられました。</p> <p>今後も県内外で開催される販売イベントに積極的に参加し、伊達地域の農産物のPRやDATECの活動の情報発信を行っていきます。</p> <p>なお、毎月第3木曜日には保原駅前公園で夕方市を開催しておりますので、興味のある方はぜひお越しください。</p> <p>当所としては、引き続き販売イベント等の開催支援を通じて、地域を支える担い手の確保・育成に取り組んでいきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 今回の主力商品であるさくらんぼの陳列の様子 写真2 「ふくしまフェスタ」での接客 写真3 いちご狩り会場にて会員が注意事項を説明する様子 写真4 いちご狩りを楽しんでいる参加者</p>
<p>担当部署</p>	<p>伊達農業普及所</p>
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>

<p>題名</p>	<p>令和5年度伊達地域新規就農者研修会を開催しました</p>
<p>本文</p>	<p>令和5年6月27日（火）、伊達市保原町と梁川町を会場に、就農希望者と就農後間もない農業者を対象に、不安なく営農を開始し持続的に発展していくことができるよう、当普及所の主催によるバスツアー「令和5年度伊達地域新規就農者研修会」を開催しました。</p> <p>就農希望者等19名を含む、27名が参加してJAふくしま未来東部広域共選場や野菜と果樹の先輩就農者の生産現場を訪問しました。</p> <p>共選場では担当者からきゅうりの機械共選状況の説明を受け、先輩農家の生産現場では就農の経緯や就農後の営農状況を聞くことで、生産から流通の実態を直に感じることができました。</p> <p>研修会には福島地域及び安達地域にも参加を募集し、伊達地域以外の就農希望者6名も参加していました。</p> <p>当普及所としては、引き続き「新規就農者研修会」等の開催を通じて、担い手の確保・育成に取り組んでいきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 機械によるきゅうりの選果の状況を見学 写真2 先輩農家（ぶどう）の話に熱心に聞く参加者</p>
<p>担当部署</p>	<p>伊達農業普及所</p>
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>



<p>題名</p>	<p>令和5年度農作業技術養成講座が開催されました</p>	
<p>本文</p>	<p>令和5年8月16日（水）、伊達市役所及び同市上保原地区のもも園において、伊達地域農業振興協議会主催により、伊達地域のもも農家の手伝いをしていただける方を対象とした「令和5年度農作業技術養成講座」が開催されました。</p> <p>当日は当普及所の職員が講師となり「もも産地の成り立ち」「ももの収穫技術」についての講義と収穫作業の実習が行われました。</p> <p>開催直前まで台風7号の影響が心配されましたが、伊達市を中心に福島市や桑折町などから、30代から60代の男女9名の参加があり、青空の下で開催することができました。</p> <p>ももの収穫作業を初めて経験する参加者も多く「傷をつけないように収穫するのが難しかった。」などの感想が聞かれました。</p> <p>収穫実習の後には、JAふくしま未来の共同選果場を訪問し、ももの箱詰め作業を見学しました。</p> <p>次回は令和6年2月下旬から3月上旬頃に「ももの摘らい」作業についての講座が開催される予定です。</p> <p>当普及所としては、引き続き本講座の開催支援などを通じて、農家の労働力不足解消に取り組んでいきます。</p>	
<p>写真</p>	 <p>写真1</p>  <p>写真3</p>	 <p>写真2</p>  <p>写真4</p>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 須田博行伊達市長による主催者挨拶 写真2 収穫実習① 写真3 収穫実習② 写真4 共同選果場見学</p>	
<p>担当部署</p>	<p>伊達農業普及所</p>	
<p>振興方向</p>	<p>2 農林業の持続的な発展を支える担い手の確保・育成と生産基盤の強化</p>	

<p>題名</p>	<p>おいしい ふくしま いただきます！キャンペーンを実施しました</p>
<p>本文</p>	<p>令和5年度「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。</p> <p>第1弾は、令和5年7月9日（日）に福島市公設地方卸売市場内で開催された「わくわく市場まつり」において、県産もものPRを行いました。食育活動の一環として、福島県のももに関する情報やももの食べ方についてのパネルを用意し、その内容に関するクイズを出題しました。また、消費者の福島県産農産物に関する意識調査を行うためのアンケートを実施しました。クイズの全問正解者やアンケート協力者にはももやももの6次化商品をプレゼントし、幅広い年代の方に県産もものPRを行うことができました。</p> <p>第2弾は、全国1位の出荷量を誇る福島県の夏秋（かしゅう）きゅうりのPR及び消費拡大を目的に、令和5年6月15日（木）～7月16日（日）まで、SNS（Instagram）を通して、レシピ募集を行いました。総投稿数60件、投稿者数30名もの応募があり、所長が「こんな食べ方があるんだ」と選んだ4品の投稿者には県産農産物及び6次化商品を、抽選で選ばれた10名には参加賞をお送りしました。所長が選んだ4品については県公式Youtube「1400のネタばらし」においても紹介しています。SNSのキャンペーンでは、県外からの投稿や、「近くのスーパーで福島県産のきゅうりが売っていた」という気づきを投稿いただくとともに、各投稿者のフォロワーにも周知されたため、取組内容の拡散が期待されます。投稿されたレシピをご覧になりたい場合は、当所ホームページまたは公式Instagramをご覧ください。</p> <p>引き続き、県北地方及び県農産物の消費拡大を目指し、取り組んでいきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>図1</p> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 「わくわく市場まつり」におけるキャンペーンの様子 写真2 きゅうり消費拡大に向けた動画撮影の1コマ 図1 県北農林事務所公式Instagram QRコード</p>
<p>担当部署</p>	<p>企画部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p>福島県特定家畜伝染病対策県北地方連絡会議を開催しました</p>
<p>本文</p>	<p>令和5年6月20日(火)、福島県庁正庁において「福島県特定家畜伝染病対策県北地方連絡会議」を開催しました。</p> <p>当日は、県北管内の市町村、団体、警察署、県建設業協会、関係機関の職員が参加しました。会議では県北家畜保健衛生所から「特定家畜伝染病」、県民生活課から「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応」について詳しく説明が行われました。また、当所担当者から「県北地方における特定家畜伝染病発生時の体制等」「管内の集合センター及び消毒ポイントの検討状況」について説明するとともに「本年度の活動計画」が示されました。</p> <p>今後とも関係機関・団体と連携を密にし、万が一発生した場合に万全な体制がとれるよう引き続き取り組んでいきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 関係機関・団体が参集 写真2 担当者による説明</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p>県北地方GAP推進協議会を開催しました！</p>
<p>本文</p>	<p>令和5年6月21日（水）、サンライフ福島大会議室において、当所主催により「県北地方GAP推進協議会」を開催しました。県北地方の市町村、市場担当者が集まり、今後の県北地方のGAP推進方針について話し合いを行いました。</p> <p>GAP（ギャップ）とは、「Good（良い） Agricultural（農業） Practice（実践）」の頭文字からとったもので、食品安全・環境保全・労働安全などの観点から、安全に農業生産に取り組むための管理項目を整理し、農業生産上のリスクを把握して改善を図っていく取組です。</p> <p>会議では活発な意見交換が行われ、GAP導入生産者の安全意識の改善や生産コストの減少による所得率の増加など、GAP取得によるメリットが確認されたことから、引き続き関係機関で連携して推進していくこととなりました。</p> <p>当所でも、県北地方のGAPの取組が増えるよう引き続き支援を行います。</p>
<p>写真</p>	 <p>写真1</p>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 県北地方GAP推進会議の様子</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p>7月13日、26日、8月8日は、ふくしま桃の日記念日！</p>
<p>本文</p>	<p>福島を代表する桃の「あかつき」の品種個体番号「れ-13」にちなみ、JAふくしま未来が、13の倍数で、7月13日、26日、8月8日の3日間を、「ふくしま桃の日」記念日として登録しました。</p> <p>その登録証授与式が令和5年7月13日（木）にJA福島ビルにおいて、開催されました。</p> <p>式典では、日本記念日協会代表理事長 加瀬清志氏より、JAふくしま未来代表理事組合長 数又清一氏へ、記念日の登録証が授与され、桑折町長 高橋宣博氏、全農福島県本部長 渡部俊男氏、ラジオ福島代表取締役社長 花見政行氏、当所家久来克之所長から、それぞれ祝辞が述べられた後、参加者で記念撮影が行われました。また、当日は、テレビ局や新聞社等が取材に訪れていました。</p> <p>この記念日が消費者へ広くPRされ、ふくしまの桃のおいしさを知ってもらおうきっかけとなることを願います。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 記念日の登録証の授与 写真2 関係機関等の集合記念写真</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>





<p>題名</p>	<p>「令和5年度県北地方フラワーネットワーク検討会」を開催しました！</p>
<p>本文</p>	<p>令和5年7月20日（木）、JAふくしま未来南支店において、当所主催による「令和5年度県北地方フラワーネットワーク検討会」を開催しました。</p> <p>本ネットワークは、JAや県北地方の生花店、花き利用施設、市場等、花きの生産から利用に関わる組織で構成され、県北地方で生産される花きの認知度向上や地元での利活用促進に向けて活動を行っており、今回は、担当者10名が参加しました。</p> <p>検討会では、県北地方で生産が盛んな小ぎくを活用した花きのPRや、ポスターを活用した県北地方で生産されている花きの情報発信について協議を行いました。</p> <p>協議後、参加者は、小ぎく栽培ほ場においてJAふくしま未来の花き担当者から産地の概要や栽培について説明を受けるとともにほ場見学を行い、県北地方の主要花きである小ぎくについて理解を深めました。</p> <p>当所では、今後も引き続きネットワークの活動を通して、県北地方の花きの認知度向上や利活用促進を図っていきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 検討会の様子（農業振興普及部長の挨拶） 写真2 小ぎくほ場見学の様子</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p>J Aふくしま未来、桑折町の表敬訪問を受けました</p>
<p>本文</p>	<p>このたび、当所にJ Aふくしま未来、桑折町より、P Rを兼ねた表敬訪問があり、当地域の代表的な農産物である、サクランボ、モモ、キュウリの贈呈を受けました。</p> <p>J Aふくしま未来からは、数又清市代表理事組合長より6月12日にサクランボ、8月1日にはモモ、キュウリが家久来農林事務所長、新井次長に贈呈されました。</p> <p>また、桑折町からは田中副町長より7月26日に、献上桃が贈呈されました。</p> <p>いずれも県北地方の「顔」とも言える代表的な農産物です。</p> <p>この先、モモは10月、キュウリは11月まで収穫が続きます。</p> <p>いずれの表敬訪問も、今年の出来具合に期待を寄せながらの和やかな訪問となりました。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>写真3</p> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 サクランボを持つ、(左より) 西常務、数又組合長、家久来所長、J - F A P関口さん(6月12日)</p> <p>写真2 J Aふくしま未来の皆さんとモモ、キュウリの贈呈を受けた家久来所長(右から3番目) および新井次長(同4番目)(7月26日)</p> <p>写真3 家久来所長(左) にモモを贈呈する田中桑折町副町長(右)(8月1日)</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

題名	ふくふくしめじ生産・販売支援の取組
本文	<p>県北管内では、現在、3名の方が県オリジナル品種のほんしめじ「ふくふくしめじ」を生産しています。</p> <p>昔から「におい松茸、味占地（しめじ）」と言われますが、ここで言われる「しめじ」はほんしめじのことであるとも言われています。</p> <p>ほんしめじは、生きた樹木と共生するため栽培は困難とされてきましたが、福島県が初めて自然栽培に成功し、県オリジナル品種「ふくふくしめじ（愛称）」として産地形成に取り組んできました。当所では定期的に生産現場を訪問し、栽培状況や課題について聞き取るほか、生産者や関係機関と意見交換会を年2回程度開催し、生産のノウハウの共有を図り、安定的な生産に向けた支援をしています。</p> <p>また、知名度をアップさせるため、昨年度は福島県農林水産部の公式YouTubeチャンネル「1400のネタばらし」に2本の動画を掲載しました。</p> <p>ちなみに管内で生産された「ふくふくしめじ」は、野生のほんしめじを山で採ったことがある方からすると、香りも味も遜色がないそうです。昨年度は、売り場で香りを嗅いだ後、うなずきながら買っていく方がいたとか。そんな「ふくふくしめじ」の調理方法は、炊き込みご飯やホイル焼きなど、香りが楽しめる調理方法がおすすめです。</p> <p>「ふくふくしめじ」は10月下旬から12月上旬頃にかけて県内の道の駅や直売所などに並ぶので、皆様も是非御賞味ください。</p>
写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1（写真は昨年度の様子）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> </div>
写真タイトル	<p>写真1 ふくふくしめじ発生の様子</p> <p>写真2 生産者と関係機関の意見交換会の様子</p> <p>写真3、4 福島県農林水産部公式YouTubeチャンネルへの掲載動画</p>
担当部署	森林林業部
振興方向	3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進



<p>題名</p>	<p>献上桃の選果式が行われました！</p>
<p>本文</p>	<p>令和5年7月25日（火）、伊達郡桑折町のJAふくしま未来桑折総合支店において、献上桃の選果式が行われました。</p> <p>福島県は、昭和54年から皇室及び各宮家に県産桃を献上しており、平成6年からは桑折町産の桃「あかつき」が献上品として選ばれ、今年で30回連続となりました。</p> <p>本年産の桃は、4月の凍霜害以外大きな自然災害や病害虫もなく、順調に生育し、平均糖度は13.3度と例年より1度高い高品質の桃に仕上がりました。</p> <p>献上桃は、選果式当日の朝に収穫され共同選果場に搬入された12万個の中から、一次選果として光センサー選果機によって、「大きさ、糖度、着色、形状」などに優れた600個が選抜されます。さらに関係者による二次選果で厳選された180個が選ばれ、丁寧に箱詰めされました。</p> <p>生産者の日々の管理により生産された高品質な桃を献上できることは、桑折町の桃生産者の誇りであるとともに励みとなっています。</p>
<p>真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 一次選果で選ばれた桃 写真2 献上桃選果式の出席者 写真3 関係者による二次選果の様子 写真4 箱詰めされた桃</p>
<p>担当部署</p>	<p>伊達農業普及所</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>



<p>題名</p>	<p>伊達市の「WC S用稲」の収穫が始まりました!</p>
<p>本文</p>	<p>令和5年8月21日(月)、伊達市のWC S用稲の収穫作業が伊達市保原町柱田地内の水田を皮切りにスタートしました。</p> <p>伊達市のWC S用稲は「JAふくしま未来伊達地区稲WC S生産組合(組合員数28名)」が平成20年から取り組んでおり、今年で15年目になりました。</p> <p>栽培面積は、全体で21haで昨年より0.3ha拡大しています。品種の内訳は収穫期間の分散化のためにコシヒカリが13.3ha、稲WC S専用品種のモミロマンが7.7haとなっています。</p> <p>収穫作業は、農業生産法人みらいアグリサービス株式会社が担っており、労力軽減が図られています。</p> <p>生産された稲WC Sは、県北地方の酪農家や和牛繁殖農家の純国産飼料として活用されています。</p> <p>当普及所では、今後とも関係機関・団体と連携し、品質の良い稲WC S生産のため引き続き支援していきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 収穫作業 写真2 梱包作業 写真3 作業全体 写真4 一時保管</p>
<p>担当部署</p>	<p>伊達農業普及所</p>
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>

<p>題名</p>	<p>ぶどうの「根圏制御栽培」現地検討会を開催しました！</p>		
<p>本文</p>	<p>令和5年8月22日（火）、当普及所が令和元年度に伊達市梁川町に設置した、「スマート農業社会実装事業」によるぶどう「根圏制御栽培」の実証ほにおいて、現地検討会を開催しました。JAふくしま未来伊達地区本部に御協力いただき、本技術に関心があるぶどう生産者や生産希望者、関係機関など計26名が参加しました。</p> <p>「根圏制御栽培」とは、遮根シート上の盛土に果樹を定植して、根を土壌から隔離したうえで、自動かん水装置を用いた精密な養水分管理により根圏の生育を制御し、地上部の栄養成長を制御する栽培方法です。本実証ほではさらに、密植や「V字型2段仕立て」樹形を組合わせています。</p> <p>慣行栽培では、まとまった収量を得るまでに5年ほどかかりますが、本実証ほでは、定植2年目から慣行栽培の成園並みの収量が得られ、さらに3年目以降は、単収が慣行栽培より多い約3t/10aに達しました。また、低樹高化による作業性の向上や、水分管理による裂果の減少なども、成果として得られています。</p> <p>検討会では、当普及所の担当者が上記の成果を説明し、園主の高橋幸三氏から、実証ほに取り組んだ感想や意見を報告いただきました。その後、実証ほの生産状況や根圏の管理状況を確認しながら、参加者による活発な意見交換が行われました。</p> <p>今後も、本技術の普及に向けた収量や果実品質等の調査に加え、昨今の資材費高騰に対する初期投資費用の早期回収など、経営面を含めた検証を進めていきます。</p>		
<p>写真</p>			
	<p>写真1</p>  <p>写真3</p>	<p>写真2</p>  <p>写真4</p>	
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 実証ほの栽培状況（株元の白い防水シートは盛土水分の蒸発抑制用） 写真2 実証ほにおけるぶどう「シャインマスカット」の生産状況 写真3 園主による本実証ほの取り組み内容の報告 写真4 自動かん水装置の運用管理について意見を交わす園主と参加者</p>		
<p>担当部署</p>	<p>伊達農業普及所</p>		
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>		

<p>題名</p>	<p>きゅうり基礎講座（第1回）を開催しました</p>	
<p>本文</p>	<p>令和5年7月6日（木）、当普及所とJA Fukushima未来安達地区本部の共催で、新規就農者及び新規栽培者の技術習得を進める、きゅうり基礎講座を開催しました。</p> <p>JA と共催したことにより、安達地域だけではなく福島市からの新規栽培者を含む、栽培歴1～2年目の8名が受講しました。JA Fukushima未来安達広域共選場では、選別と目揃いに関する基礎知識を学ぶとともに、現地研修では篤農家ほ場で適期管理作業等の実践的な技術を学びました。</p> <p>受講者からは栽培や出荷に対する質問があり、「これまで悩んでいた事について、直接質問でき解決につながった。」等との声がありました。</p> <p>当普及所では、今後、秋頃に第2回きゅうり基礎講座の開催を予定しており、次作に向け、座学による動画や写真を使った長期獲りを目指す為の基礎的な管理や第1回基礎講座の復習をメインの内容として、きゅうり新規栽培者の技術向上を支援していきます。</p>	
<p>写真</p>	 <p>写真1</p>	 <p>写真2</p>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 共選場での視察の様子 写真2 篤農家ほ場での現地研修の様子</p>	
<p>担当部署</p>	<p>安達農業普及所</p>	
<p>振興方向</p>	<p>3 安全で魅力的な農林産物の安定供給と販売促進</p>	

<p>題名</p>	<p>「令和5年度県北地方有害鳥獣被害防止対策会議」を開催しました！</p>
<p>本文</p>	<p>令和5年6月27日（火）、JAふくしま未来野田支店において、当所主催による「令和5年度県北地方有害鳥獣被害防止対策会議」を開催しました。</p> <p>当日は、県北管内の市町村、JAふくしま未来等関係機関、団体の担当者約20名が参加し、鳥獣被害対策アドバイザーとして福島大学の望月翔太准教授にも御出席いただきました。</p> <p>会議では、県北地方の有害鳥獣による被害や対策状況について情報共有を行うとともに、望月准教授を交えて被害防止対策に係る情報・意見交換を実施し、参加者間で活発な情報交換が行われました。</p> <p>さらに、望月准教授からは、スマートフェンスやドローンなど新技術の紹介や各市町村が抱える被害対策の課題について、他地域の事例を踏まえた助言をいただきました。</p> <p>今回の会議を通して、対策に携わる関係機関・団体の担当者の対策に係る知識や理解が深まったことで、今後、さらなる被害防止対策の推進が期待されます。</p> <p>当所として、今後も引き続き関係機関・団体と協力し、対策モデル集落等で実施される対策の取組への支援を行っていきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 会議の様子 写真2 望月准教授からの情報提供及び助言</p>
<p>担当部署</p>	<p>農業振興普及部</p>
<p>振興方向</p>	<p>4 豊かな農山村の形成と活性化</p>



<p>題名</p>	<p>農業水利施設の役割について学習しました！</p>	
<p>本文</p>	<p>令和5年6月23日（金）水土里を育む普及促進事業で、大玉土地改良区が「三ツ森溜池施設見学体験ツアー」を行いました。</p> <p>当日は、大玉村立玉井小学校4年生の児童45名が、測量体験を行いました。児童たちは、最新の機器を使った測量に興味津々で、楽しく農業水利施設の役割や重要性を学習しました。</p> <p>8月3日（木）同じく水土里を育む普及促進事業で、伊達西根堰土地改良区が「西根堰の隧道探検」を行いました。</p> <p>当日は、一般の参加者10名が、ボートやタイヤチューブに乗って、西根上堰の頭首工から隧道内部を約500m探検して、農業用水の重要性を学びました。</p>	
<p>写真</p>	 <p>写真1</p>	 <p>写真2</p>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 360°カメラを使った撮影（三ツ森溜池） 写真2 アプリを使った測量（三ツ森溜池） 写真3 ボートでの隧道探検（西根堰） 写真4 タイヤチューブでの隧道探検（西根堰）</p>	
<p>担当部署</p>	<p>農村整備部</p>	
<p>振興方向</p>	<p>4 豊かな農山村の形成と活性化</p>	



題名	「田んぼの学校 田んぼの生き物授業」を行いました！	
本文	<p>令和5年6月28日（水）、今年度からモデル小学校として「田んぼの学校」に取り組んでいる「二本松市立東和小学校」で、アクアマリンふくしまの春本直範先生による「田んぼの生き物」の授業を行いました。</p> <p>予定では、4年生児童37名が布沢棚田のビオトープで魚や水生昆虫の捕獲体験を行うところでしたが、雨天のため教室での授業となりました。</p> <p>授業では、始めに先生から「田んぼのはたらき」について説明があり、「田んぼには水を蓄えることにより（周囲の）湿度や温度を調節する機能がある。このため小さな生き物のゆりかごとなっている。大型の捕食者から子どもを守ることができるためナマズも産卵のために入ってくることもある。」との話があり、さらに、「土の水路からコンクリートの水路に変わることによって生き物の隠れ家が少しずつ減ってきている。農林事務所には未来にむけて生き物が住みやすい水路を作って欲しい。児童の皆さんにはまずは今の田んぼを知ることからはじめて欲しい。」との話がありました。</p> <p>田んぼや水路の生き物の観察では、春本先生が事前に用意していたアブラハヤやゲンゴロウなどの生き物や授業の直前に捕獲したタニシの観察を行いました。</p> <p>観察前に春本先生が「皆さんが飼っている生き物について教えてください。」と児童に聞いたところヤギからハリネズミまでいろいろな答えがあり、中には「おかいこさま」と元気に答える児童もいました。</p> <p>春本先生の生き物解説では、油をぬったようにすべすべするアブラハヤ、背中を下にして泳ぐマツモムシ、噛まれると危険なゲンゴロウの幼虫、食用にできるマルタニシ、外来生物のアメリカザリガニの解説があり、最近、県内でも一部でしか見られなくなったタガメも間近で見せてもらいました。</p> <p>児童の感想では「わたしのまわりにいる動物や植物を今度は自分で調べてみたい。」との発言があり、先生が児童たちに「同じようにもっと知りたいなと思った人」と聞いたところ、ほとんどの児童から手が上がりました。</p>	
写真		
写真タイトル	<p>写真1 春本先生による授業の様子</p> <p>写真2 田んぼの生き物を観察</p>	
担当部署	農村整備部	
振興方向	4 豊かな農山村の形成と活性化	

題名	「ふくしまの農村学びの場」現地見学会を行いました	
本文	<p>令和5年8月19日(土)、県北地域の土地改良施設(農業に欠かせないダムやため池など)である「山ノ入ダム」(二本松市)や「荒池(ため池)」(大玉村)等を巡る「ふくしまの農村学びの場」現地見学会を開催しました。</p> <p>参加した小学生から中学生までの児童・生徒とその家族(計36名)らは、クイズなどを交えながらダムとため池の違いを学んだり、きゅうりやももの収穫体験を通じ、楽しみながら農業や土地改良施設に対する理解を深めていました。</p> <p>また、ため池の工事現場では、施工業者の東信建設工業(株)のご協力のもと、ため池工事の見学と人力作業(ため池の止水効果を高める泥団子を構造物に塗りつける作業)を行いました。来年には盛土が完了するため、通常では立つことの出来ない場所での体験に皆ワクワクしていただきました。</p> <p>お昼は、土地改良施設の恩恵を受けている田畑の恵みを味わってもらえるよう、大玉村とあだたらの里「福、笑い」研究会の協力を得て、「きゅうり」と「もも」の収穫体験と福島県のブランド米の「福、笑い」を使ったパンのハンバーガー作りに挑戦し、みんなで美味しくいただきました。収穫体験では農家の方のお話も聞くことができ、さまざまな方向から農業と土地改良施設の大切さや重要性を知っていただける機会となりました。</p>	
写真	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真5</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真6</p> </div> </div>	
写真タイトル	<p>写真1 山ノ入ダム見学 写真2 きゅうり収穫体験 写真3 もも収穫体験 写真4 集合写真 写真5 ため池盛土材混合状況見学 写真6 工事のお手伝い</p>	
担当部署	農村整備部	
振興方向	4 豊かな農山村の形成と活性化	

<p>題名</p>	<p>一般農道整備 0301 工事小島 3 期地区が優良建設工事表彰を受賞</p>
<p>本文</p>	<p>令和 5 年 9 月 8 日（金）、杉妻会館牡丹の間において福島県優良建設工事表彰式が挙行政され、農林水産部関係 8 業者、土木部関係 28 業者が受賞されました。当所からは、(株)野地組が農道部門での受賞となりました。</p> <p>当工事は、川俣町大字小島と伊達市月舘町上手渡を結ぶ農道の延長 341m の道路改良工事であり、掘削量約 4 万 m³ のうち 9 割が硬い岩盤であるとともに、発破作業や他工事との綿密な工程調整が求められる難易度の高い工事でありました。</p> <p>また、発生残土を農地の盛土材に活用し、耕作者が作業しやすい農地として復旧したことや、県立明成高校の現場実習や小学生を対象にした現場見学会を開催するなど社会貢献も積極的に取り組んだことが評価されました。</p>
<p>写真</p>	<div style="text-align: center;">  <p>写真 1</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真 2</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真 3</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真 1 受賞者集合写真（前列左端が当該工事受注者） 写真 2 優良工事写真 写真 3 小学生の現場見学会</p>
<p>担当部署</p>	<p>農村整備部</p>
<p>振興方向</p>	<p>4 豊かな農山村の形成と活性化</p>

題名	二本松実業高校の生徒へ「フレッシュ農業講座」を開催！	
本文	<p>次世代の地域農業の担い手と農業をささえる農村住民や消費者を育成するために、二本松実業高校の農業科目選択生徒に対し、「フレッシュ農業講座」として、7月4日（火）に「園芸講座」、翌5日（水）に「循環型農業講座」を開催しました。</p> <p>「園芸講座」では、2年生14名が安達地域を代表する園芸品目「きゅうり」の生産ほ場とJA共選施設を視察しました。生徒達は、安達地区有数の大規模きゅうり生産者の半沢宣孝氏から、実際にほ場を見ながら経営や栽培の工夫を聞き、積極的に質問をしていました。また、JA共選施設では、持ち込まれたきゅうりが出荷されるまでを興味深く見学していました。</p> <p>アンケート結果からは、「きゅうりがこのような工夫と努力をして栽培されていることがわかった。」「兼業で農業をやってみたい」等という意見もあり、農業への理解と興味が向上したことがうかがえました。</p> <p>「循環型農業講座」では、3年生の自主研究で「農薬を使用しない雑草対策」をテーマにしている生徒達7名が「ライムギ不耕起栽培」等のほ場を見学しました。見学先の武藤園芸は、スプレーマムを中心とする周年切花生産を行っていますが、昨年からは有機野菜栽培にも取り組み、ライムギを秋に播種し初夏の出穂前に倒してマルチにし野菜等を植付ける試みを行っています。生徒は講師の武藤政寛氏からムギの発芽を向上させるポイントやライムギの土壌を柔らかくする効果について質問を交えながら説明を受け、自分達の研究の参考にしていました。</p> <p>武藤政寛氏は就農5年目で同校の前身の安達東高校卒業生です。就農した経過や就農時と現在の農業への取り組みや思いの違い等についてもお話いただき、生徒のアンケート結果からは、農業への興味の向上の他、進路の参考になったという意見もみられました。</p> <p>次年度も高校と連携した講座を開催し、農業の担い手とささえ手の育成をしていきます。</p>	
写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真3</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真4</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真5</p> </div> </div>	
写真タイトル	<p>写真1 きゅうりほ場で講師に質問をする生徒達 写真2 JA共選施設で選別作業の説明を聴く 写真3 ライムギを倒したほ場で説明を聴く 写真4 ライムギを倒した後に植えたサツマイモ 写真5 スプレーマムのハウスで「先輩」の武藤氏</p>	
担当部署	安達農業普及所	
振興方向	4 豊かな農山村の形成と活性化	

<p>題名</p>	<p>福島県農林水産業振興計画に係る意見交換会を開催しました</p>
<p>本文</p>	<p>令和5年7月26日(水)、キョウワグループ・テルサホールにおいて、福島県農林水産業振興計画に係る意見交換会を開催しました。本意見交換会は、スタートして2年目となる福島県農林水産業振興計画の周知を図るとともに現場の課題等を把握するため、管内の生産者等から意見を聴取し翌年度の施策に反映するために開催したもので、管内の若手農業者や流通関係者等の6名に出席いただきました。</p> <p>会では、農林水産部農林企画課から全体計画の取組と、当所から地方の取組について説明するとともに、「担い手の確保・育成」及び「農林産物の販売促進活動の取組」を主なテーマとし、活発に意見交換が行われました。</p> <p>参加者から、農繁期の人員確保が難しいため労力調整システムの構築や、新規就農者の経営開始時における資金面でのサポート、「ふくふくしめじ」の生産拡大・販売促進についてなど、多くの貴重な御意見をいただきました。</p> <p>いただいた意見を基に取組内容等を検討し、県北地方のスローガンである「くだもの・きゅうり・花き王国の飛躍と農林業の持続的な発展」の下、県北地方の農林業振興に取り組んでいきます。</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真2</p> </div> </div>
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 所長挨拶 写真2 意見を述べる参加者</p>
<p>担当部署</p>	<p>企画部</p>
<p>振興方向</p>	<p>5 その他</p>

<p>題名</p>	<p>市町村林道担当者の林道災害復旧事業研修会</p>	
<p>本文</p>	<p>林道は、私たちの暮らしに欠かせない大切な森林を守り育てるために無くてはならない施設です。林道を整備・管理することで、植林や下刈、間伐などの保育作業や木材の搬出などの生産性向上につながり、森林施業の推進が図られます。</p> <p>自然災害により林道が被災した場合、復旧工事を行うこととなります。特に地域の生活道路として利用されている林道については、速やかな対応が求められます。</p> <p>そのため、管内市町村の林道担当者を対象とした「令和5年度林道施設災害復旧事業研修会」を6月9日（金）に開催しました。8名の参加者が、福島県庁北庁舎で講義と演習、二本松市・林道笹ノ田大沢線で現地研修を行いました。</p> <p>研修では、林道の被害調査、復旧工法の検討、査定対応、復旧工事について受講し、林道被害の概況把握について、グループに分かれて演習を行いました。</p> <p>研修で林道災害復旧事業について全てを理解することは難しいですが、林道災害が発生した際に、研修で習得した基本的知識や災害査定における復旧工法の考え方や申請方法などが、活かされるものと考えています。</p> <p>当所としては、台風シーズンを迎えるに当たり、市町村の林道担当者の皆さんと災害に備えるとともに、林道災害が発生した場合には、速やかに復旧事業を進めていきます。</p>	
<p>写真</p>		
<p>写真タイトル</p>	<p>写真1 「林道施設災害復旧事業のポイント」について受講 写真2 「林道施設災害復旧事業の実施箇所（二本松市・林道笹ノ田大沢線）」で現地研修</p>	
<p>担当部署</p>	<p>森林林業部</p>	
<p>振興方向</p>	<p>5 その他</p>	